

令和5年度
東京大学産学協創・社会連携協議会総会

東京大学の知的財産IR活動
～東京大学知的財産報告書の発行～

2024年3月12日
東京大学産学協創推進本部
副本部長 大熊 靖夫

東京大学知的財産報告書 発行の背景

<東京大学の近年の取組み「見える化」>

- ◎2018年 国内大学初の統合報告書発行
財務情報と非財務情報を組み合わせた
「見える化」の積極的な取組み
- ◎2020年 国内大学初の大学債発行
市場からの資金調達に伴い、大学の資産
・活動の「見える化」が一層重要に



IR×IR
INTEGRATED REPORT • INSTITUTIONAL RESEARCH
東京大学 統合報告書 2018

<企業活動における知的財産重視の動き>

- ◎世界的に企業価値の源泉が有形資産から無形資産へ
機関投資家のESG投資においても知財情報活用の動き
- ◎2021年 コーポレートガバナンス・コードの改訂
「・・・人的資本や知的財産への投資等についても、
自社の経営戦略・経営課題との整合性を意識しつつ
分かりやすく具体的に情報を開示・提供すべき・・・」

UTokyo Compass

- ◎ 2021年9月 東京大学の基本方針「UTokyo Compass 多様性の海へ：対話が創造する未来」を公表
- ◎ 取り組むべき計画 経営に資する知的財産ポートフォリオの構築による知的財産IRの実施
- ◎ 「大学の無形資産としての知的財産の開示方法を検討」して「知的財産 IR を実施し定着させる」

UTokyo COMPASS 

多様性の海へ：対話が創造する未来

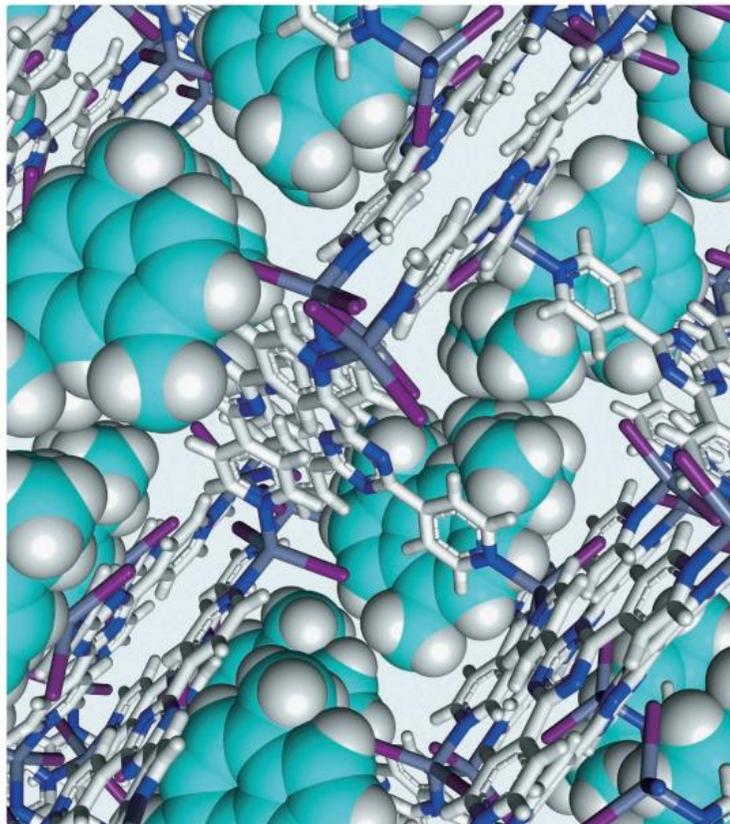


東京大学知的財産報告書2022の発行

- ◎ 2022年11月 「東京大学知的財産報告書2022」を発行
- ◎ 統計データのほかライセンス事例紹介など多角的な内容
- ◎ 大学の知財活動の見える化を実現。国内大学初の取組み

東京大学 知的財産報告書 2022

活用される東京大学の知的財産 — 研究成果の社会実装に向けて



<目次>

東京大学における知的財産権の役割とは？

ノーベル賞級の研究成果 特許を使って普及、社会実装

1. 発明の届出状況
2. 特許の出願状況
- 3-1. 特許の活用状況
- 3-2. 特許等の知的財産を活用するスタートアップ企業
4. ソフトウェア著作権等の承継と活用状況
5. 知的財産活動から得られる収入の状況
6. 知的財産活動による更なる社会貢献に向けて

★東大産学協創推進本部HPで公開中★

<https://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/ip/2022IR.html>

東京大学知的財産報告書2023の発行

- ◎ 2023年11月「東京大学知的財産報告書2023」を発行
- ◎ 統計データなど継続性を保ちつつFB等を踏まえた見直し
- ◎ 全学的な取り組み：UTokyo Compassや多様性を盛り込む

東京大学 知的財産報告書 2023

活用される東京大学の知的財産 — 「学知」の更なる社会実装に向けて



<目次>

東大知財の今がわかる報告書

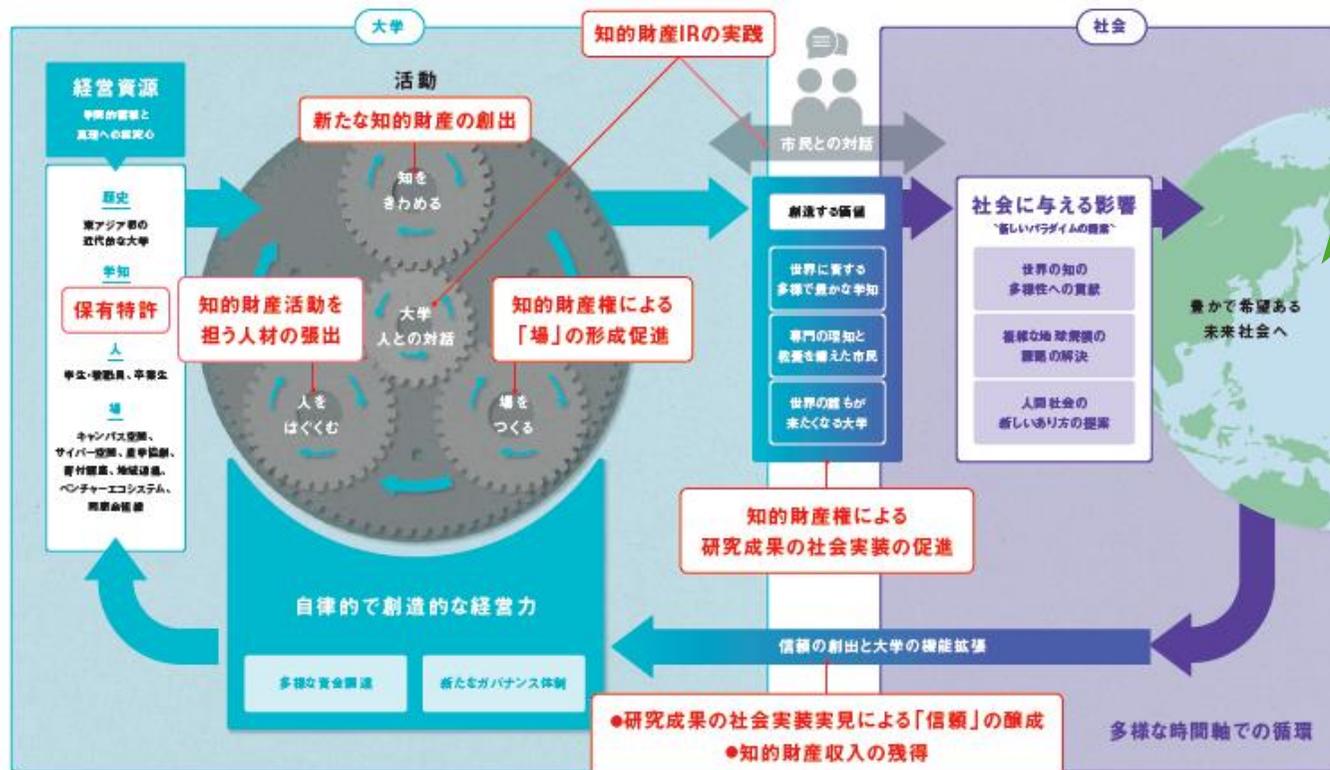
1. UTokyo Compassと知的財産
2. 発明の届出
3. 特許の出願と保有
4. 特許の活用
5. スタートアップへの実施許諾
6. 様々な知的財産の継承や活用
7. 直接的な知的財産収入と支出

★東大産学協創推進本部HPで公開中★

<https://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/ip/IRTOP.HTML>

UTokyo Compassと知的財産

- ◎ 3つの視点と20の目標と知財の関わりを解説
- 「知をきわめる」視点：大学が生み出した学知をベースとした民間との価値協創や共同研究による知財増加
 - 「人をはぐくむ」視点：知財を生み出す研究者や社会実装を担う起業家の教育機関としての本学からの誕生
 - 「場をつくる」視点：知財を呼び水としたスタートアップへの投資の呼び込みや産学協創の連携強化

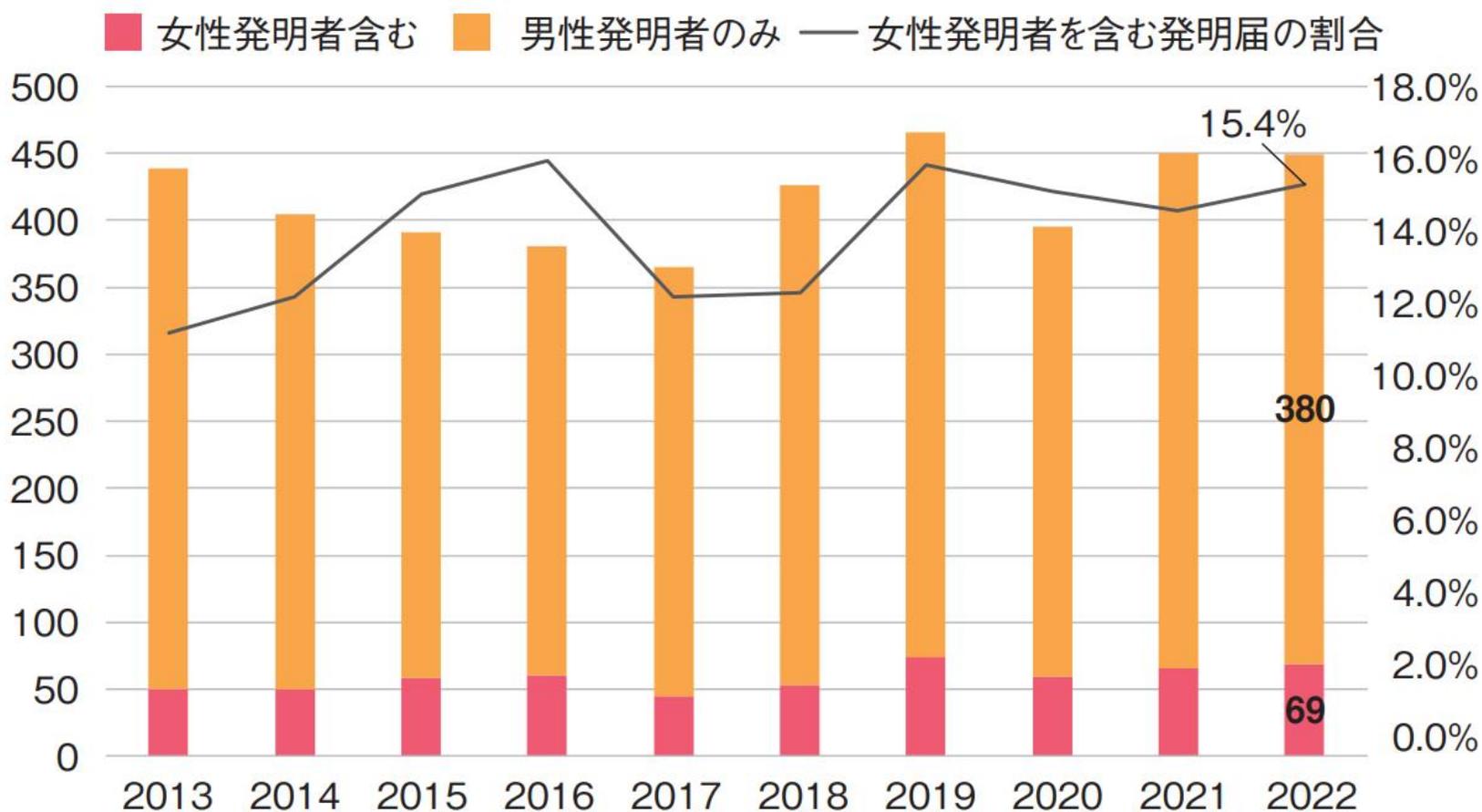


報告書内では「東京大学の未来社会創造モデル」※における知的財産の役割も紹介

※「東京大学の未来社会創造モデル」については統合報告書 2022 (21頁) をご参照ください

女性発明者を含む発明届数

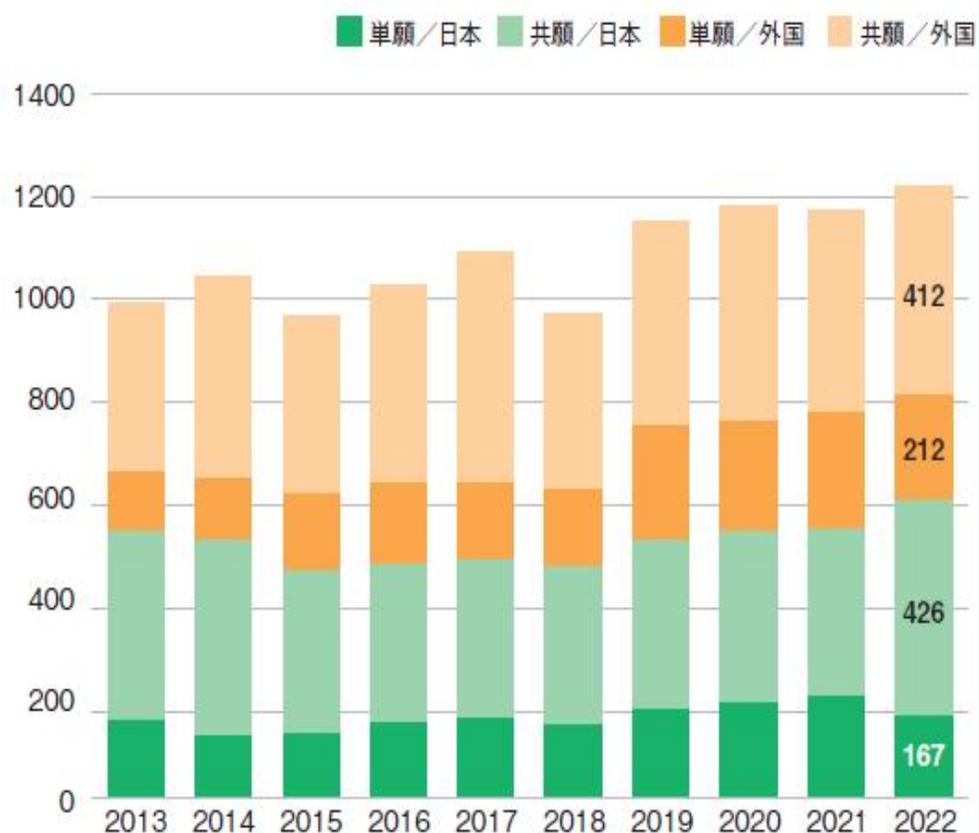
- ◎ 東大の女性教授/准教授は増加傾向（10年間で100名増）
- ◎ 一方で女性発明者は横ばい(女性含む発明届50~70件/年)
- ◎ 報告書では特許出願にも積極的な野崎京子教授を紹介



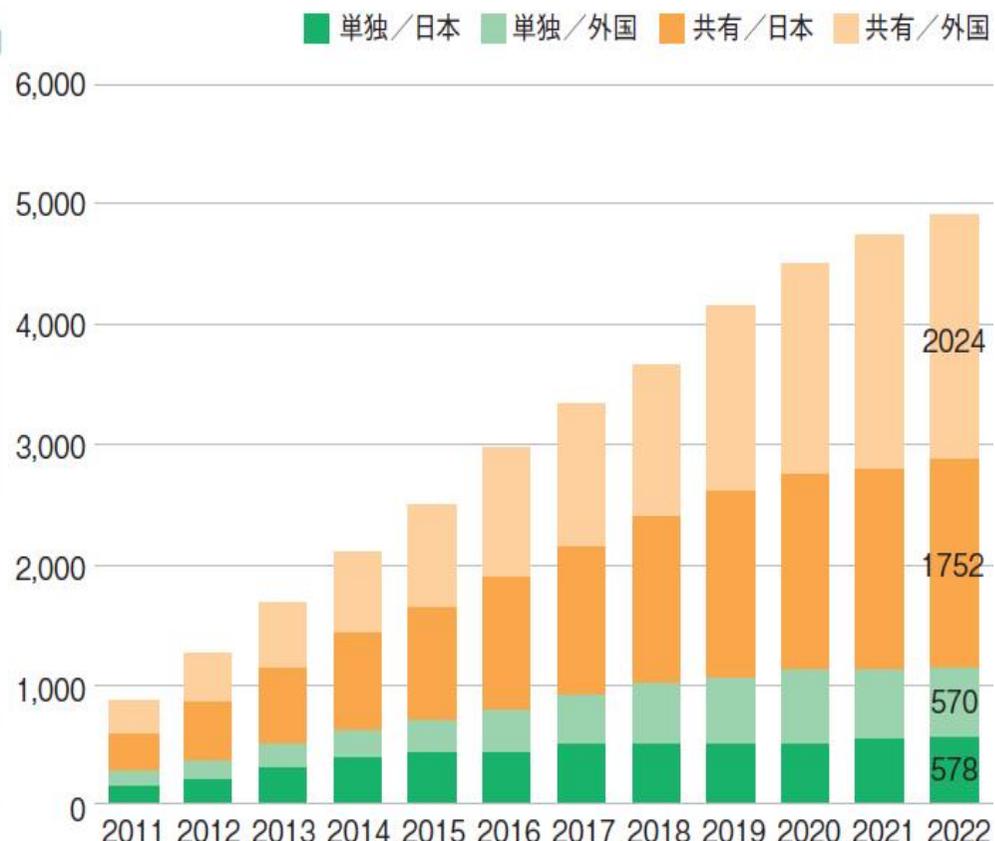
特許出願・保有件数の推移

- ◎ 特許出願件数は漸増傾向。2022年度は約1200件
- ◎ 特許保有件数は右肩上がり。2022年度は約4900件
- ◎ 維持負担が生じる単独特許には、より適切な棚卸を実施

特許出願件数の推移

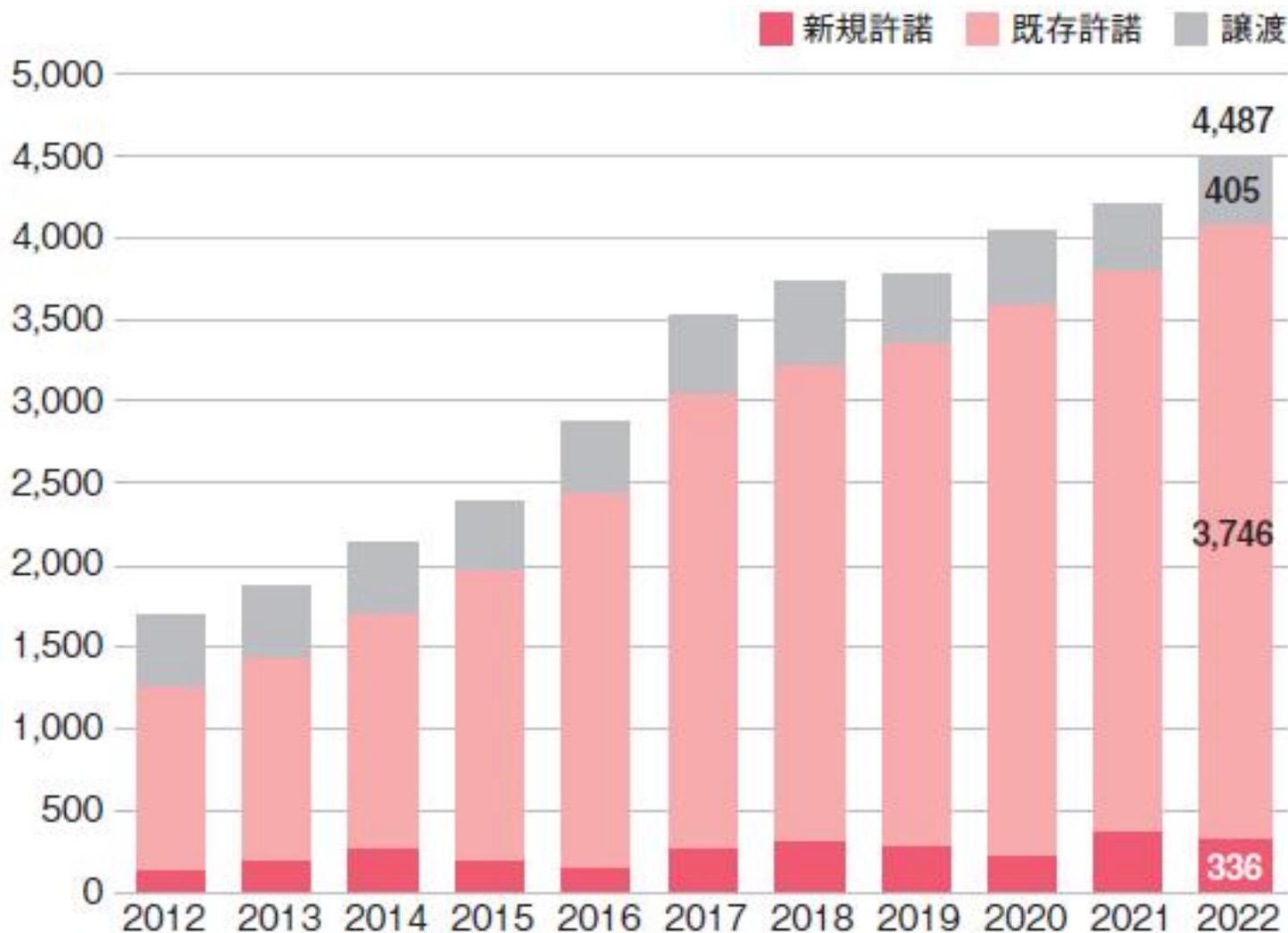


特許保有件数の推移



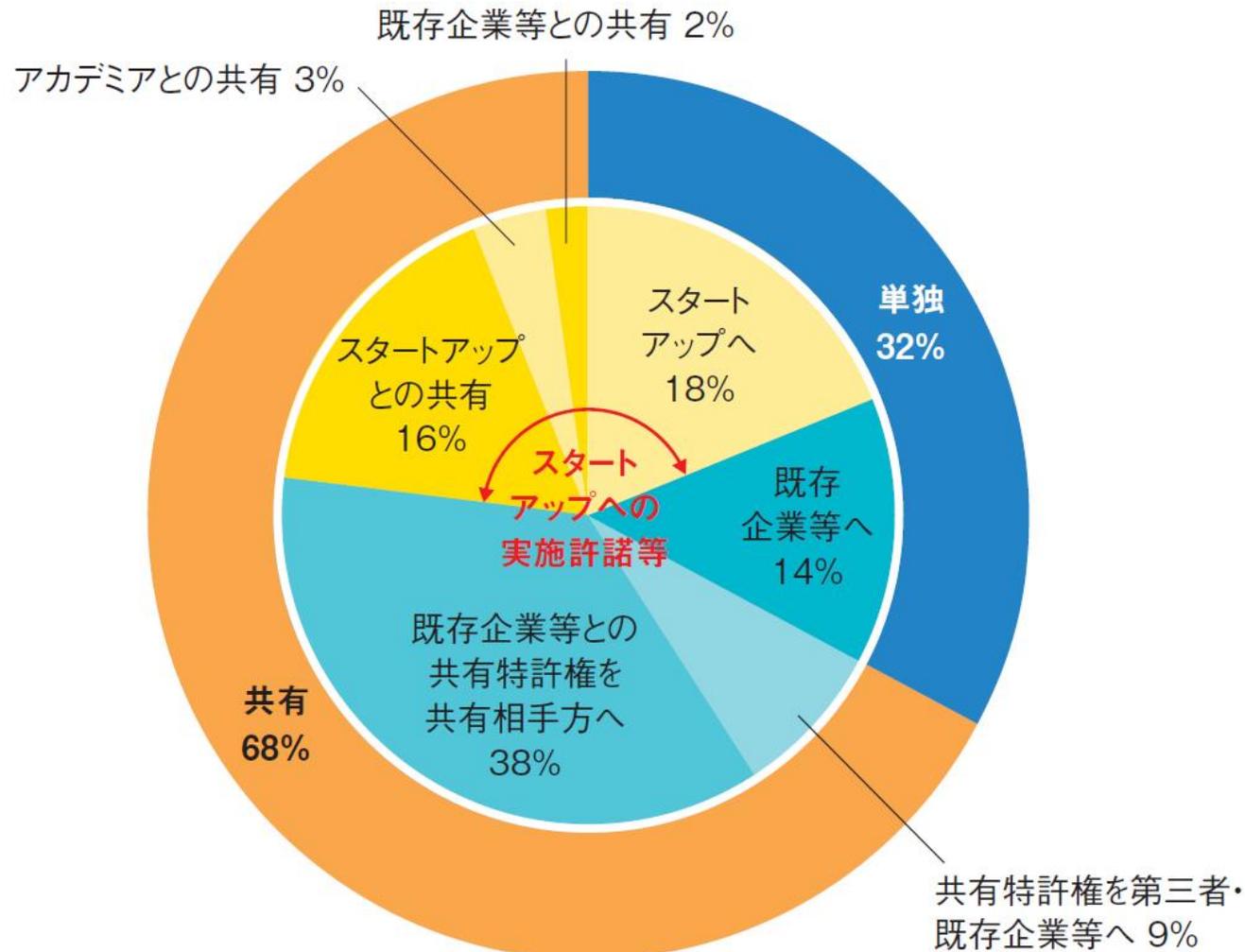
特許権の実施許諾件数推移

- ◎ 実施許諾件数は増加傾向。2022年度は336件を新規許諾
- ◎ 約4500件の実施許諾のうち3割強が単特保有特許
- ◎ 国内大学最多実績。企業との関係構築も含め大きな財産



スタートアップへの実施許諾

- ◎ 単独保有の実施許諾のうち半数以上がスタートアップ
- ◎ 共有特許の実施許諾も3割程度はスタートアップ
- ◎ 全体として4割程度がスタートアップへの許諾



東大知財を活用した様々な実例紹介

◎【4. 特許の活用】

小泉製麻株式会社様 “コンクリート構造物の経年劣化という社会問題に挑む炭酸バブル水噴霧器”（工学系研究科野口貴文教授ほか）

◎【5. スタートアップへの実施許諾】

シンクサイト株式会社様 “次世代の高速細胞分析分離システムで新たな医療診断や細胞治療を実現する”（先端科学技術研究センター太田禎生准教授ほか）

株式会社Gaianixx様 “半導体多層膜のひずみ問題を解決する薄膜成長技術と中間膜で半導体に飛躍的な変革をもたらす”（工学系研究科木島健特任研究員ほか）

◎【6. 様々な知的財産の継承や活用】

株式会社HEMILLIONS様 “世界標準に準拠したソフトウェアの提供を通じて、日本の医療データの標準化、流通促進を進める”（医学系研究科大江和彦教授ほか）

ぜひ知的財産報告書をご覧いただきまして、
ご意見や感想などお聞かせください。
info@ducr.u-tokyo.ac.jp

東京大学知的財産報告書

<https://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/ip/IRTOP.HTML>